

最新AVアンプ 比較試聴

YAMAHA RX-A3040 PIONEER SC-LX88

YAMAHA RX-A3040



- ・サイズ：435×192×467(mm)
- ・重量：19.6Kg
- ・希望小売価格：¥250,000

試聴後感想

その音の良さに感銘を受けた A1040 の上級モデル A3040 がどのような音を聞かせてくれるのか？かなり期待をしていました。その期待に応える形で A3040 は強化されたデジタル回路とパワーアンプの効果で、音が相当細かくなっていました。中低音にも厚みが出て、また DSP の能力も大幅に向上しています。けれど期待が大きすぎたせいかもしれません、A3040 は A1040 と比べて「作られた音」という印象をやや強く受けました。等身大で自然な音で音楽を聞かせてくれた A1040 とは違って、A3040 の DSP は「作られた音」という存在感が強くなっています。また、DSP を使わずに聞いた場

合も音が細かく聞こえ過ぎて（情報量が増えすぎて）、スピーカー・セッティングなどに細かさが求められるように思いました。今回はテストしなかったのですが、A3040 が搭載する「自動調整機能」を使えば、もっと自然な音で鳴ったかも知れませんが、エイジング（慣らし運転）の期間が足りなかったのかも知れません。カジュアルで楽しい音を聞かせてくれるのが A1040 なら、密度の高い精密な音を聞かせてくれるのが A3040 です。どちらを選ぶかは、価格と音の性質が違うので迷われることはないと思いますが、はっきり言えるのは A3040 は A1040 よりも明確にマニア向きだということです。

PIONEER SC-LX88



- ・サイズ：435×185×441(mm)
- ・重量：18.0Kg
- ・希望小売価格：¥335,000

試聴後感想

「手動設定」で SC-LX88 を聞いた時は、ソフト（音源）に対してシビアな印象を持ちました。良い音は良く、悪い音は悪く再現されたからです。最近の J-POP 系のソフトの多くは録音が酷く悪いので、TAD などの高額 HiFi システムでそれを聞くと、がっかりを通り越して腹が立つ時があるほどです。MCACC を使わずに聞いた SC-LX88 は TAD に近い方向の音で、録音の悪いソフトを聞くのはかなり辛いと思います。けれど MCACC 設定を行うと音質はドラスティックに変わります。あたかも乾ききった砂に水を含ませたよ

うに、音がしっとりとして艶が出て響きも豊富になり、雰囲気グッと濃くなります。アンプの音はスピーカーとの組み合わせとそのセッティングで大きく変わります。その難題を MCACC PRO という「現代装備」で解決した SC-LX88 は、やはり価格相応の優れたアンプです。操作系が洗練されれば、まさに「鬼に金棒」になるはず。値が張る製品ですが、従来モデルからの買い換えで十分納得できるクオリティーが実現すると思いました。

MARANTZ SR7009



- ・サイズ：440×185×401(mm)
- ・重量：13.8Kg
- ・希望小売価格：¥230,000

試聴後感想

「Marantz で最初に SR7009 を見たとき「Gold」では絶対に売れない！と感じました。今も marantz の BD プレーヤーなどの周辺機器は「ブラック」が基本なのでその思いは変わっていませんが、Marantz 高級オーディオ機器そのものの芳醇な SR7009 の音を聞いた後では、このアンプには「Marantz の Gold カラー」が相応しいと感じています。そのカラーがその音を連想させるからです。けれど、やっぱり黒の中に Gold だと違和感がありますよね！今まで聞いた 2014 年新製品の AV アンプでは、Pioneer が最も先進的なサウンドで、YAMAHA がそれ

に次ぐ感じでした。DENON は低価格で好ましい音質を実現していて好感が持てました。今回試聴した SR7009 は、高級機らしい音の細やかさと、家庭で音楽を聞き癒されるために求められる「大らかさ、楽しさ」を高い次元で両立しています。その音はこれまで AIRBOW が marantz カスタムモデルで実現してきたものとても良く似ています。自分を作る音に似ているから、私は今回効いた AV アンプの中で特に SR7009 の音が好きなのだと思います。レコードやカセットテープで音楽を聞いていた世代には、SR7009 の音は違和感なく身体に馴染むと思います。

AIRBOW NR1605/Special



- ・サイズ：440×105×376(mm)
- ・重量：8.6Kg
- ・販売価格：¥148,000（税込）

試聴後感想

このサイズに 7ch のアンプを搭載するのは、ピュアオーディオ機器の常識的で考えると無理があります。この先入観から NR1605 Special では電源の安定性がキーになり、微小信号の再現性や低音の引き締まり感では大型 AV アンプには敵わないと諦めていた部分がありました。けれど今回カスタマイズの内容を変更したことでその音質は想像を超えるほど大きく向上しました。パーツの少ないシンプルな回路に高級オーディオパーツを多数組み込んだ NR1605 Special は、音の細やかさと透明感が非常に優れています。その音質は各社から発売されるフラッグシップ AV アンプに匹敵しうるか、もしかするとそれらを凌駕するほどです。録音の良いバイオリンソロ演奏を鳴らすと、バイオリンの音だけではなく楽器を取り巻く空間の響きまでもが再現されることに驚かされます。ジャズでは低音楽器の量感と、

引き締まり感に驚きます。このサイズのアンプでは電源が振られて低音が緩くなるのですが、NR1605 Special はそれを感じません。marantz 上級モデル SR7009 との比較では、低音のリッチさでは SR7009 が勝るかもしれませんが、低音のパンチ力や引き締まり感では NR1605 Special がそれに勝る印象です。SR7009 が高級コンポの持つ「芳醇な世界感」を醸し出すのに対し、NR1605 Special は AIRBOW らしい「自然で深みのある世界観」を実現します。AV アンプでありながら AIRBOW ピュアオーディオモデルのようにディスクに記録された音をめいっぱい引き出しながら、同時に味わい深く楽しませるそのテイストは他の AV アンプでは得られないものです。NR1605 Special の本格的なサウンドは、深夜や休日の時間帯に一人でじっくり聞くのに向いています。小型だけれど、中身は全然小型ではありません。

MARANTZ SR7009

AIRBOW NR1605/Special

試聴に使ったスピーカーシステム

- ・フロント：Focal 1028BE
- ・センター：AIRBOW IMAGE11/KA12
- ・リア：Vienna Acoustics Mozart Grand(T2G)



Focal 1028BE

Vienna Acoustics Mozart Grand(T2G)



AIRBOW IMAGE11/KA12



iPod touch USB 接続 音質テスト (音源は CD から取り込んだ WAV ファイル)



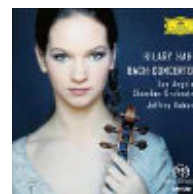
A Child is Born / Junko Mine
"My One and Only Love"

WAV



Ballad Collection Mellow / DOUBLE
"Stranger"

WAV



Hilary Hearn
"Bach Concerto"

WAV

YAMAHA RX-A3040

「ステレオ」

デジタル回路を 32bit にアップグレードし、DSP や DAC の IC を余裕を持たせて複数使った効果でしょう。RX-A3040 は AV アンプとは思えないほど音が滑らかできめ細かく、iPod を繋いでみても、驚くほど細やかな雰囲気まで再現されます。また、聞こえるか聞こえないかのぎりぎりの音の再現性に優れ、その場の雰囲気や空気感のようなものまで伝わります。

ボーカルは自然、サ行もキツくならず、滑らかで艶があります。ピアノの音には厚みがあり、いかにもピアノらしい上質でゴージャスな音が出ます。小さな音が大きくなる部分の変化もスムーズで、音に不要な角や髭が付かないのは A1040 と同じ美点です。じっと聞いていると、A1040 を大きく超えるディティールの細やかな再現で音楽の世界に引き込まれるような、質感の高い大人の音で My One and Only Love が鳴りました。

「DSP (Dolby PL2/Music)」

A1040 の試聴では DSP プログラムは、「スタンダード」をつかいました。しかし、A3040 で「スタンダード」を使うと、エコーが過多で不自然な雰囲気になってしまいました。そこでもう一度すべての DSP を聞き比べると、この曲では YAMAHA がオリジナルで搭載する DSP よりも Dolby PL2 (Music) や NEO : 6 (Music) がより自然に感じられました。そういう理由で、A3040 では、PL2 (Music) を使って疑似サラウンドを聞いてみました。

モードをステレオから PL2 (Music) に変更すると、伴奏の音がリアスピーカーに割り振られ、ピアノの音がリスナー後方へと広がります。ピアノの音にさらなる厚みが出て響きも長くなりますが、リアスピーカーからボーカルの音はでないで、声は前方中央にしっかり定位します。

ボーカルはリスナー前方ステージの中央にしっかりと定位します。重厚感溢れるグランドピアノらしい響きは部屋中に広がります。それぞれの音の色彩感も増して、雰囲気さらに濃くなります。ただ、A1040 と比べて A3040 が「Stereo」の音質が大きく向上しているため、DSP のあるなしによる変化は、A1040 ほど大きく感じられませんでした。

「ステレオ」

A1040 で感心した 2014 年モデル YAMAHA AV アンプの特長である「澄み切った音」にパワー感と厚みが加わります。AV アンプでありがちだった、高域の誇張感もう完全に過去のものになりました。目の前で鳴っているのは、AV アンプとは思えないほどクリアで滑らかな音です。

低音はしっかりと押し出して、ゆったりと収束します。A3040 は低音の収束が早く、やや音が乾いて感じられた A1040 とは違い、低音にタメが出ます。ボーカルは中央に綺麗に定位し、その声はウェットで艶があり唇の濡れた感じが伝わります。声の調子は A1040 よりもさらに力強く、真っ直ぐリスナーに向かってくる雰囲気です。A1040 で唯一不満を感じた「艶」が A3040 では出てきました。ビュアオーディオ機器と比べても何ら遜色のない良い音、自然なバランスでストレンジャーが鳴りました。

「DSP (ムービー：サイファイ)」

ストレンジャーで My One and Only Love と違うのは、指打ちの音やウインドベルなど「高域の音が明確に収録」されている部分です。DSP が作り出す音は、エコーや広がりを通る周波数の高い音域が中心です。高音の明瞭度が高いストレンジャーでは、DSP がどのように音を作りスピーカーに割り振っているのかがはっきりと聞き取れます。ストレンジャーで Dolby PL2 (Music) と YAMAHA の各種 DSP を聞き比べると、YAMAHA DSP の中高域の細やかさが Dolby とは比べものにならないほど優れていることがわかります。Dolby の作り出すエフェクト音は「やや不明瞭」ですが、YAMAHA DSP の作り出すエフェクト音は、驚くほど「明瞭」なのです。

そこでストレンジャーで色々な DSP プログラムを試してみると、「ボーカルのセンター定位」と「後方への伴奏の広がり感」が両立している「ムービー：サイファイ」が適していました。音楽用のプログラムではない「ムービー：サイファイ」ですが、使うと Stereo モードで横に広がっていた音が前後方向にも広がり、ステージの奥行きがグッと増します。ボーカルは前方中央ジャストに定位し、伴奏はゆっくりと後へ広がります。やや広がり不足だった演奏が、立体的に広がります。まるで絵画が彫刻になったような、見事な 3D サウンドでストレンジャーが鳴りました。

「ステレオ」

弦楽器の音が高音までスッキリ伸びて魅力的な鳴り方をするのは A1040 に共通する美点ですが、A3040 はそれに加え「中域の弦」に厚みが出ます。中域がリッチになった結果、相対的に高域が少し伸びなくなっているように感じますが、バランスとしてはこちらの方が適切だと思います。

A1040 では「1 弦 2 弦」が魅力的に聞こえたヒラリー・ハーンが奏でるバイオリンは、得意とする音の帯域がオーケータンぽく下がったイメージで、A3040 では「2 弦 3 弦」が魅力的に鳴りました。

A1040 はフレッシュで快活にこの曲を鳴らし、A3040 はそれよりもゆったりとふくよかにこの曲を鳴らします。音質は明らかに A3040 が優れていますが、音楽を魅力的に鳴らすということでは、A1040 も A3040 に引けを取りません。普通のご家庭なら、A1040 で十分だと思います。しかも、A3040 よりも大幅に安いのです！

「DSP」

RX-A1040 には「ミュンヘン」、「ウィーン」、「チェンバー」と名付けられた 3 つの「ホールトーン」がプログラムされていました。A3040 にはさらに「アムステルダム」、「フライング」、「ロワイヨーン」の 3 つが加わり、合計 6 つが使えます。

それぞれを聞いてみましたが、「DSP が生み出す音が明瞭すぎる」ためか、A1040 と比べて効果がやや強すぎて DSP エフェクトがやや不自然に感じられる部分がありました。また、水平方向への音の広がりの改善が著しく改善されるのに比べ、垂直方向への音の広がりがそれほど変わらないため、音場がレンズ上に薄っぺらくなってしまいました。A3040 でクラシック用の DSP を使う場合は、できればハイトスピーカーを使って上下方向へも音を広げたいと感じました。

さらなる使いこなしが要求されるという意味で、A1040 はエントリーモデル、A3040 はハイエンドモデルと明確な違いが感じられます。A3040 の真価を発揮させるためにはハイトスピーカーが必須だと感じますが、商品の個性が明確なのは良いことだと思います。

PIONEER SC-LX88

「Direct」

最近テストした「YAMAHA RX-A3040 の音質」と記憶と比較すると、SC-LX88 の音は高域がきめ細やかで透明感が高く感じられます。中低音の厚みは、RX-A3040 の方があったように思いますが、この楽曲をライブ的に鳴らした RX-A3040 に比べ SC-LX88 の音はより HiFi 感が強く、良い音で鳴る印象です。しかし、それは従来の SC-LX87 よりも Pioneer の 2ch オーディオ機器に近く、音楽からの距離が若干離れたように感じられました。音質派の SC-LX88 に対し、雰囲気派の RX-A3040 という違いを感じました。

「DSP (Dolby Surround)」

SC-LX88 のプリセットの DSP を試しましたが、効果が強すぎて不自然なため、「Dolby Surround」を聞きました。Direct で不足しがちだった「エコー成分 (音の響き)」が増え、雰囲気感が驚くほど向上します。個人的には HiFi な音よりも雰囲気の違い、例えば真空管アンプで聞くような音が好きですが、サラウンドにしたときの雰囲気感の向上には目を見張るものがあり、かなり上級なオーディオシステムで SACD サラウンドを聞いているような、上質なサウンドが実現しました。特に高域の澄み切った細やかさは、YAMAHA RX-A3040 を確実に上回るでしょう。中低音はまだ RX-A3040 ほどの厚みはありませんが、クオリティーの高い中高域の質感がそれを補って余りあります。この高い質感は、AV アンプとしては初めて実現したものかもしれません。

MARANTZ SR7009

「Direct」

一音が出た瞬間に「ほっと」します。クールで少し硬さが感じられた SC-LX88 とは一変して、SR7009 から はふくよかで心が癒されるような暖かいサウンドが溢れてきます。思わず一緒に歌を口ずさみたくなる様な楽しい音。峰純子さんのボーカルが胸の奥にじんと滲みて、思わず涙が出そうになりました。

家に帰り自分の時間を取り戻せるひとときにこんな優しい音で音楽を聞けるなら、きっと毎日帰る時間が待ち遠しくなることでしょう。「良い音！良いアンプをありがとうございます！」心からそう思える音で、大好きな峰純子さんの My One and only love が鳴りました。

「DSP (DTS NEO : X Cinema)」

この曲では、DSP の必要を感じません。柔らかく身体を包み込むような音場と、余韻を楽しめる豊かな響きがステレオ再生で十分実現するからです。しかし、テストなので DSP もチェックしました。Dolby では、音が中央によって音場が濃くなりました。DTS NEO : X Cinema (Music ではなく) では、音がふわりと広がってライブ会場で演奏を聴いている雰囲気になりました。特にボーカルがセンタースピーカーに割り振られた影響で、声の滲みが消えたのが大きいのでしょ。本日に生演奏を聴いているような音です。iPad Touch で音楽を聞いていることを完全に忘れさせ、嘘偽りなくレコードでこのソフトを聞いている味わいが出ました。

AIRBOW NR1605 Special

「Stereo」

NR1605 Special は、「Direct」だと音がストレート過ぎることがあります。そこで今回の試聴は音の響きが豊かで、艶もでる「Stereo」で行いました。イントロのピアノの響きの美しさにハッとさせられます。スリキリとしたピアノの打鍵感とグラウンドピアノらしい重厚な響きが実にリアルです。

ボーカルは力強く、細かいビブラートや息づかいの変化がしっかりと伝わります。ドラムはリズムをしっかりと刻み、シンバルは高域が綺麗に伸びて金属らしい透明な響きを奏でます。どの音も実に美しく、自然で生々しく再現されます。

「DSP (DTS NEO : X Music)」

DSP を使うと音の広がりが増え、楽器の響きが長く余韻を引くようになりまし。ボーカルはセンターに使っている AIRBOW IMAGE11/KA12 の良さが発揮され、口元が引き締まります。ステージ上の緊張が伝わる Stereo の音が、DSP を使うことで歌手がテーブルに来てフレンドリーに歌っているようなイメージに変化しました。

「Direct」

今回はコントローラーに Android の端末を使いましたが、アプリの動作 (iPhone も基本的に同じ) は YAMAHA ほど洗練されていません。リモコンの操作も慣れるまではちょっといらした。この点は、直感的に動作した YAMAHA のアプリとリモコンが操作性に優れます。

SC-LX88 の音質はこのソフトには良くマッチしていて、非常に細かい部分までハッキリと聞き取れます。伴奏は少し前に出てボーカルとかぶり気味で、ステージ前後方向の広がりが少し不足気味。声は少し細いですが、表情は素直で細やか。とにかく音の細かさや品位の高さに驚きました。

「DSP (Dolby Surround)」

My One and only Love と同じ印象で、響きが豊かになり雰囲気感が濃くなります。すこし気になっていた音の広がりの狭さも改善され、ボーカルに「たかこさん」らしいハスキーさが出てきました。伴奏の低音部もぐっと厚みが増し、雰囲気だけではなくパワー感も大きく改善します。向上ではなく改善と書いたのは、DSP を使うと音が良くなるだけではなく生演奏を聴いている雰囲気とぐっと近づくからです。YAMAHA RX シリーズは、アナログアンプらしい響きのあるやわらかくクールな音調が魅力です。音の細やかさでは SC-LX88 が RX-A3040 を上回りますが、RX-A3040 の艶のある雰囲気感も捨てがたく感じました。どちらも良い音のアンプです。

「Direct」

YAMAHA をシンプルにしたイメージでのアプリの画面や動作は、シンプルで使いやすいと思いますが、動作が少し緩慢な印象です。中音は厚みがあり滑らか。高音はシルクのようにきめ細かくスムーズ。低音は僅かに遅れて音楽にゆとりを与えます。SR7009 は SC-LX88 に比べて、解像度や明瞭度が若干劣りますが、ポートレート撮影で適度なソフトフォーカスが色気を醸し出すのと同じように「聞こえそうで聞こえない SR7009 の音」は、想像をかき立てる色気があります。

「DSP (DTS NEO : X Music)」

YAMAHA RX-A3040 の DSP は少し頑張った印象があり、Pioneer SC-LX88 は効きすぎて音が変わってしまいました。SR7009 の DSP が生み出す疑似サラウンドの響きは自然で違和感がありません。DSP を使っても Direct と変わらない音の細かさ、滑らかさが実現します。

DSP を使った疑似サラウンドも素晴らしい SR7009 ですが、やはりその真骨頂は「ステレオ (2ch)」にあると思います。その点でサラウンドソースに重点を置いているように感じられた、SC-LX88 や RX-A3040 との明確な思想の違いを感じます。

SR7009 の芳醇なサウンドは、これまでの AV アンプにはなかったものです。

「Stereo」

柔らかなシンセサイザーの響きの中に、ベルの音が驚くほど綺麗に分離して定位します。指打ちの音も人間の肌触りが伝わります。アンプのサイズを疑うほど豊かで力強い低音が出ます。SR7009 と比べて NR1605 Special が優れていると感じるのは、空間の透明感と解像度感。SR7009 はそれぞれの音に marantz らしい艶と響き加わり、真空管アンプのような趣を醸し出しました。フランス料理のようなコッテリした味わいの SR7009 に対し、よりストレートでピュアなサウンドの NR1605 Special は、ライトなイタリアンです。

「DSP (DTS NEO : X Music)」

My One And only Love でも感じましたが、NR1605 Special の Stereo モードは、「コンサート」もしくは「コンクール」を感じさせる少し緊張感を伴う音質です。同じ曲に DSP を使うと「ライブ」を感じさせるフレンドリーでより明るく楽しい音質に変化します。

どちらも聴き応えのある音なので、気分に応じて使い分けられ 1 つの曲を 2 種類のアンプで聞き分けるような楽しみが生まれると思います。

「Direct」

バランスの良いオーディオで聞くと、バイオリンの 3 弦 4 弦の音は実にふくよかで柔らかくなりますが、SC-LX88 が鳴らすバイオリンは 3 弦 4 弦の音が少し硬く感じます。このソフトでは、SC-LX88 の音は少しシャープでクールに感じます。また録音がストレートに出てしまい、バイオリンの音が安楽器のそのように聞こえてしまいます。

「DSP (Dolby Surround)」

この曲では DSP を使っても、さほど雰囲気は変化しません。ぐちゃぐちゃになっていずバイオリンの音が若干ほぐれ、バイオリン、チェロ、コントラバスの分離も向上しますが、普段聞いている AIRBOW の CD+ プリメインアンプの方が、もっと音楽が楽しく豊かに鳴ります。

試しにこのソフトよりも録音の良い「ヒラリー・ハーン デビューアルバム (バッハ・ソナタ)」を同じように DSP で聞いてみると、最初はステレオに比べて若干エコーが過剰になり、バイオリンの定位感が殺されるように感じました。しかし、しばらく聞いているとそれはほとんど気にならなくなって、ホール音やバイオリンの切り返しの駒のカタカタ音が聞こえ、マイクの前でヒラリー・ハーンが身体を揺らしながらバイオリンを弾いている感じが伝わるようになりました。さらに聞き続けていくと、オーディオで演奏を聴いている違和感が消えて、生演奏を聴いている雰囲気感でこの曲を聴けるようになりました。SC-LX88 は音が良い分、「録音状態」にシビアな性質を持っているようです。

「Direct」

SR7009 には marantz がピュアオーディオ機器に採用する「HDAM」というバッファアンプが搭載されていますが、この回路が生み出す「響き」が塊になってしまった音を手くくろくして、立体的に展開させるのでしよう。SR7009 は、録音に問題があるこのソフトでも楽器の分離感、音の広がり感に違和感が生じません。

今聞いているこの音は、まさしく marantz の高級モデルのサウンドそのもののテストです。バイオリンはバイオリンらしく伸びやかでみずみずしい音で鳴っています。SC-LX88 に比べて本体重量がやや軽い SR7009 では、低音の力感や量感の不足を心配したのですがそれは全く杞憂で、チェロはチェロらしく朗々と鳴り、コントラバスの低音は力感たっぷりです。それぞれの楽器の音の長所が実に良く再現されます。音楽ソフトを聞くのであれば、SR7009 は間違いなく歴代 marantz の AV アンプで最も良い音に仕上がっています。

「DSP (DTS NEO : X Music)」

Dolby Surround は、音が中央に寄りすぎてホール感が上手く出ません。DTS NEO : X Music では前後方向の奥行きと楽器の実在感が向上し、ホールらしい雰囲気が出ます。各楽器の分離感と位置関係も改善し、ステージ上に楽器がきちんと並びます。それぞれの演奏者の身体の動きが感じられるほど濃い雰囲気感が出ました。SR7009 は、DSP を使うことでさらに音楽の楽しみをさらに広げます。

「Stereo」

ヒラリー・ハーンのバッハ・コンチェルトを Direct モードで聴くと、音が上手くくくれません。Stereo モードに変えると音場に奥行きが生まれ、音場が立体的に大きく広がります。響きも増えて、生演奏の雰囲気が出ました。コンサートマスター、バイオリン、チェロ、コントラバスの各パートの分離感も自然になります。

小型薄型のアンプで薄くなりしがちな弦楽器の基音部、特にコントラバスが大型アンプ並の量感で再現されるのは圧巻です。NR1605 Special が実現する弦楽器の品格は高級ピュアオーディオと等しく、演奏全体のまとまりも良好です。

「DSP (DTS NEO : X Music)」

DSP を使うと楽団の「編成」が大きくなりました。ホールのサイズも増大しますが、コンサートマスターの定位 / 分離感とそれぞれの伴奏を司る楽器の音の分離 / 広がり感、自然なスケールのまま保たれます。

DSP 疑似サラウンドを使うことで、コンサートホールのベストの座席で演奏を聴いているような「直接音と間接音の絶妙なバランス」が実現しました。



試聴に使ったプレーヤーとデジタルケーブル



iPod Touch (第4世代)



audioquest USB-DIAMOND



AIRBOW UD7007 Special



audioquest HDMI-Vodka

BD プレーヤー HDMI 接続 音質テスト



iPod Touch との組み合わせで一通りのジャンルを聞いた後、AIRBOW UD7007 Special にそれぞれのディスクをセットし、iPod+USB と UD7007 Special+HDMI の音質を比較しました。ヒラリー・ハーンのバツハコンチェルトは、ハイブリッドディスクなので SACD レイヤーを聴いてみました。

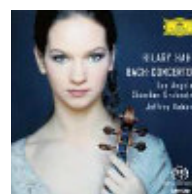
A Child is Born / Junko Mine
"My One and Only Love"

CD

Ballad Collection Mellow
/ DOUBLE "Stranger"

CD

DVD

Hilary Hearn
"Bach Concerto"

SACD

YAMAHA RX-A3040

「ステレオ」

A1040 で比較したときは、iPod より UD7007 Special の音が良く聞こえました。A3040 でも同様にプレーヤーを UD7007 Special に変えると音がさらにきめ細くなり、かなり上質なビュアオーディオ機器でこのソフトを聞くとときと同じような雰囲気が出されました。

ピアノの響きは一段と美しく深く、ボーカルもその魅力を増します。ただ、DSP エフェクト同様に iPod と UD7007 Special の差が大きく感じられないのは、A3040 のデジタル回路が A1040 よりもすぐれているので、「劣悪なデータからでも良い音が出せる」からだと思っています。

また、再生周波数帯域の上限と下限が伸びきらないように感じた A1040 と比べ、A3040 の音はビュアオーディオ機器とほとんど変わらず高域はスッパリと伸び、ピアノも重厚に鳴ります。ボーカルに艶もあり、唇の濡れたイメージが伝わります。

入力機器を変えたことで、A3040 の魅力はさらに増し、価格を超える贅沢なサウンドで My One and Only Love が鳴りました。

「CD : ステレオ」

iPod でも不満がなかったイントロのベルの音に鮮やかな色彩が出ます。空間はさらに透明感を増し、音の密度も高まります。細部は驚くほど解像度が向上し、今まで聞こえなかった細かい音や、ハーモニーの重なりがより複雑に聞き取れるようになりました。

A3040 では入力ソースの違いや DSP のあるなしでそれほど音が変わりません。その点では、接続機器や DSP プログラムでカメレオンのように音が変わった A1040 に比べると、若干「面白み」に欠ける気がしました。

「DVD : ステレオ」

ソフトを DVD に変えると CD では若干曇って感じられた高域が伸びやかになり、スッパリと見通しが良くなりました。けれど A3040 は A1040 に比べ、なぜか音が重く感じられます。肩の上に重しを載せられているように、なんだか重い感じです。

今日の天気は秋晴れで、空気もカラリと乾いているので、湿度のせいではなさそうです。なんだか、ちょっと気分が重い音です。音は細かく、性能は良いのですが・・・、ワクワクする感じがちょっと足りない感じです。

「SACD : ステレオ」

SACD では CD よりも高域がさらに伸びます。ヒラリー・ハーンの奏でるバイオリンは、伴奏と明確に分離し音が抜けてきます。ただ適度に音が整理されて、演奏の構造が感じ取りやすかった A1040 に比べると、A3040 は音の数が多すぎて、スピーカーやリスニングルームがそれを処理し切れていない感じがします。

一つずつの音を分析的に聞いて行くと、奏者一人一人の音が聞こえるのではと感ずるほど細かいところまで聞こえます。けれど主役と脇役の描き分けが浅く、そのためすべての音が一度に聞こえる感じです。もちろんそれは、使っているグラムフォンのソフトの「悪いところ」なのですが、A3040 は A1040 に比べ性能が向上している分「使いこなす」も難しくなっているのは間違いありません。A3040 の音は、YAMAHA が「頑張った感じ」が少し強い印象でした。

また、部屋の響きと上手く一体化して鳴った A1040 に比べると、A3040 はスピーカーの音を直接聞いているイメージです。ただし、A3040 を聞いている 3 号館の試聴環境は一般家庭よりも少し響きが少なく部屋の響きが生かされません。一般家庭のよりライブな環境であれば、A3040 の音質の良さが発揮されるはずです。

PIONEER SC-LX88

「Direct」

SC-LX88 で iPod Touch と AIRBOW UD7007 Special を聞き比べると、かなり上質なビュアオーディオ機器でこのソフトを聞くとときと同じような雰囲気が出されます。ピアノの響きは一段と美しく深くなり、ボーカルには艶が乗ってもその魅力が倍加します。

ディスクプレーヤーを使うことで SC-LX88 は響きと艶を増し、2ch 高級ビュアオーディオ機器に遜色ない品質感の高い音と、洗練された雰囲気感を感じさせます。AV アンプを超える品位の高いサウンドで My One and Only Love が鳴りました。

「CD : Direct」

イントロのウインドベルの音が、美しく尾を引いて消えるようになります。ボーカルはまだ少し線が細いですが、艶が出て雰囲気は良くなりました。

「DVD : Direct」

DVD の音は CD よりも色彩感が濃く、雰囲気も深くなります。また、高域がスッパリと伸びると同時に、低域もしっかりします。

このソフトを RX-A3040 で聞いた時は少し雰囲気が重くなったのですが、SC-LX88 では重いのではなく「しっとりしている」ように感じられ、より魅力的です。ただ、それでも CD に比べると DVD の音が少し重くなるのは、このソフトの CD と DVD の音の違いなのだと思います。

SC-LX88+UD7007 Special では、DVD よりも CD の音の方が魅力的に感じられました。AIRBOW の AV アンプと UD7007 Special の組み合わせでは、DVD の方があらゆる部分で良く聞こえるので、この試聴結果は意外でした。

「SACD : Direct」

CD に比べ音質が改善し、音が柔らかくなります。しかし、ディスクそのものの録音の悪さが露呈して楽器の音がほぐれず、ホールで演奏されている広がり感や、楽器の音が綺麗に重なりながら消えて行く感じが出ません。

MARANTZ SR7009

「Direct」

AIRBOW 製品との組合せでは、ソースを iPod Touch から UD7007 Special で演奏する CD ディスクに変えると音質がガラリと変わりますが、SR7009 はあまり変化がありません。UD7007 Special で良くならなかったと言うのではなく、意外に iPod Touch の音が良かったという印象です。UD7007 Special にプレーヤーを変えても、音のバランスや音色や雰囲気は一切変わらないのは立派を通り越して、ちょっとした驚きです。細かい部分を聞くのでなければ、iPod Touch は大いに健闘していました。けれどじっくりと耳を澄ますと UD7007 Special で聞く My One And only Love は、音質の生々しさリアリティーが格段に向上していることが聞き取れました。

「CD : Direct」

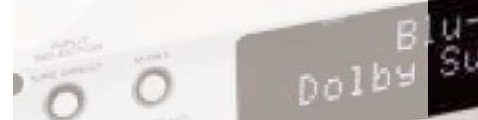
SR7009 の音には艶と色があって、奏でる音楽にはストーリーがあります。音のわかる大人に聞いて欲しい音です。けれど中高域の滑らかさや優しさや引き替えに SC-LX88 や RX-A3040 に比べると低域の制動がやや甘く、低音が少し膨らむ傾向を感じます。組み合わせているスピーカーの Focal 1028BE が少し低音が緩い傾向を持っているのでそのせいかも知れませんが、SR7009 はスピーカーの個性をそのまま出してくる感じです。明瞭度、高域の抜けるようなシャープさが好みならば、この音はちょっと違いますが、この穏やかな音が私は好きです。

「DVD : Direct」

ストーリー性の強いこの曲には、DVD に収録される美しい PV がよく合います。映像と音楽が見事にマッチして、Double が奏でるストレンジャーの世界に引き込まれて時間を忘れます。marantz SR7009 が持つ大人のムードとこの DVD が実に良くマッチします。納得の！音質でストレンジャーが鳴りました。

「SACD : Direct」

SR7009 で聞く CD と SACD は、劇的に音が変わることがあります。しかしそれはネガティブな評価ではなく「ソースを変えても音のバランスが変わらず自然な音で鳴る」という素晴らしい能力を持っているというポジティブな評価です。SACD は CD に比べて一段と音が細かく、楽音の分離にも優れています。この難しいソフトを「よくぞここまで見事の再生する！」という印象です。もちろん、同価格帯の CD プレーヤー + プリメインアンプには及びませんが、無理をして背伸びをしていない自然体の良さが SR7009 には感じられます。違和感なく、自然に演奏に溶け込めるよう



AIRBOW NR1605/Special

「Stereo」

NR1605 Special が鳴らす 1028BE は驚くほど細かく、上品で質の高い音で音楽を奏でます。私は「もっとすごいアンプで 1028BE を聞いた」経験から、今出ている音が Focal 1028BE の持つすべての性能が発揮されているのではないことがわかるのですが、いきなりこの音を聞かされたら 1028BE が「鳴りきっている」と感じるかも知れません。

iPod で WAV ファイルを再生したときにも感じたのですが、NR1605 Special はピアノの音が特に優れています。無駄な響きが少なく、グランドピアノらしい金属の硬質な美しさと、分厚い木の響きから生まれる響きの重厚感がピアノを実にそれらしく鳴らします。

SR7009 では iPod と UD7007 Special の音質差は思ったほどに感じられませんでした。NR1605 Special では明らかに iPod とは異なる 1 つ高い次元の音を聞かせてくれました。

「CD : Stereo」

プレーヤーを iPod Touch から UD7007 Special に変えたことで艶が濃くなり、雰囲気も深くなりました。

録音の良いこのディスクを UD7007 Special で再生すると NR1605 Special の音質はさらに向上します。こんなに小さいアンプですが、その解像度（音の細やかさ）と明瞭度は各社から発売されているフラッグシップ AV アンプを凌駕するほど素晴らしいレベルに仕上がっていることを実感できました。

「DVD : Stereo」

シンプルな回路に高音質パーツを組み合わせた結果でしょう。NR1605 Special の音は驚くほど細かく、DVD では聞こえない音の雰囲気まで再現されるほど濃密な雰囲気が実現します。その音の良さもさることながら、NR1605 Special の最大のポイントは何と言っても「AIRBOW らしい自然な雰囲気」です。

鋭く突き抜け、美しく尾を引くベルの音、唇の動きが読めるほど細やかなボーカル、揺るぎのないリズムセクション。AV アンプとは思えないほどの高音質でこのディスクが再現されました。

「SACD : Stereo」

弦楽器の音数と透明感が向上します。前後方向への広がりもさらに大きくなり、Stereo 再生でも身体の後側にまで回り込むような音の広がりや自然な立体感が実現しました。コンサートマスター、バイオリン、チェロ、コントラバスのパートの分離も完全で、それぞれのパートがまったく混じり合うことがなく、写譜できそうなほど綺麗に分離して聞き取れます。リズムの刻みも非常に正確、音がしっかり出すぎて少し緊張感を伴いますが、このスリリングな感じも悪くありません。

Hilary Hearn
"Bach Concerto"

WAV

i-Cat HTPC に取り込んだ WAV ファイルを DLNA（ネットワーク）経由で聞いてみました。（RX-A3040, SC-LX88, SR-7009）



AIRBOW MSS-i3/MSHD に取り込んだ WAV ファイルを DLNA（ネットワーク）経由で聞いてみました。（NR1605/Special）



YAMAHA RX-A3040

iPod と比べるとネットワークの音は響きが少なく、中高域はややさっぱりとした印象です。低音は揺るがず蔵のようにしっかりしています。この低音の安定感は、CD のようなふらつく回転系を持たない PC の利点だと思います（HDD の回転速度は CD と比較にならないほど速く、ジャイロ効果でディスクのふらつきがほとんどありません）。

UD7007 Special と比べると、ネットワークの音は中高域の SN が少し悪化し、空間の見通しが悪くなりますが、その音はほとんど癖がなく、音楽を聞く音と考えれば悪くありません。少なくとも i-Cat HTPC をデータストレージ（データ送り出し機）として用いれば、ネットワークを意識せずに音楽が聞ける高音質が得られると思います。

良い意味でごく普通に、ごく普通の音でヒラリー・ハーンのバッハ・コンチェルトが鳴りました。

DSP を使うことで NR1605 Special のサウンドは豊かさや優しさが増し、高音質と高い芸術性を維持したまま演奏にさらなる奥行きが醸し出されました。

PIONEER SC-LX88

響きがほとんどなく、音が切れ切れに出てくる印象です。低音は悪くないのですが、弦の音がパサついて滑らかさが足りません。響きの少ない SC-LX88 は、PC 系のオーディオとの相性はあまり良くないのかも知れません。

MARANTZ SR7009

さすがに SACD と比べると高域が濁り、解像度も落ちてきますが、決して悪い音ではありません。

YAMAHA RX-A3040 もネットワーク経由の音は結構いけたのですが、SR7009 はそれよりもさらに滑らかで暖かい音質です。それと聞かされなければ、CD を聞いているのとまったく変わらない良い音でヒラリー・ハーン バッハ・コンチェルトが聴けました。

AIRBOW NR1605/Special

SACD と比べると少し高域が濁り、解像度も僅かに落ちますが、ネットワーク経由の音は SR7009 と比べて NR1605 Special が圧倒的に透明で高音質です。iPod (WAV) と比べてもネットワークの音質は優れています。UD7007 Special で聞く CD の再生とほとんど聞き分けられない音質でバッハ・コンチェルトが再現されました。リラックスして自然体で音楽を聴ける音がネットワークで実現します。



GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊

BD プレーヤー
AIRBOW UD7007 Special

試聴に締めくくりに DVD のサラウンドソフトを使って、MCACC PRO の効果を試しました。試聴には DTS から無償で配布される DEMO ソフトに収録されている「GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊」使い、サブウーファーを使わない 5.0ch サラウンドで聞きくらべました。

PIONEER SC-LX88

「DTS サラウンド：手動設定」

最初は「手動設定（※設定値はこのページ右下に記載）」の音質です。

このソフトは驚くほど細かい音まで作り込まれているので、音質に優れた装置で再生すると「場の空気感」まで再現することができます。SC-LX88 はこのソフトを驚くほど細やかで、実にリアルな音で鳴らしました。冒頭のドアのベルの音、ずっと流れている低音の響き、銃を打つ音、葉が落ちる音、子供の声、あらゆる音がリアルで動きも良好です。DVD がこのクォリティーで再現されるのであれば、映画用のサラウンドアンプとしての能力は非常に高いと考えられます。

無駄な響きが少なく、音が細やかで明瞭度の高い SC-LX88 のサウンドは、サラウンドで生きてきます。

「MCACC PRO：サラウンド」

マイクを本体に繋ぐだけで、後は待っているだけですべての測定が完了するのは非常に便利です。リモコン操作のレスポンスや使い勝手に違和感を持っていただけに、その簡便さには感動しました。

測定音を聞いていると、ホワイトノイズ、バンドノイズ、パルス、高速スイープが使われているようです。比較的早くセットアップは完了し、音を出した瞬間からその効果がハッキリとわかります。手動設定でもスピーカーの位置が完全に消え、スピーカーの外側にまで大きく音を広げる事ができた SC-LX88 ですが、MCACC PRO を使うと空間の密度感が向上し、S/N 感もさらに向上します。スピーカーの存在感が完全に消えて、手にとって触れそうなくらいリアルで細かい音がシームレス（継ぎ目のない）に部屋を満たします。SC-LX86 以前の Pioneer 製 AV アンプから交換すると、その音には大いに感動されると思います。素晴らしい音でサラウンドが聞けました。

「MCACC PRO：CD ステレオ」

MCACC PRO の効果があまりにも素晴らしかったのもしやと思い、今回の試聴で最も相性の悪かった「ヒラリー・ハーンバッハ・コンチェルト」の CD を聞いてみました。

バイオリンの高音が乾き、まだすこしバサついて感じられます。また、MCACC を使わない時に比べ、高音が少しミュートされるように感じます。けれども、この曲で最も致命的だと感じられた「音の広がり」と「響きの少なさ」はいずれも大きく改善しました。テンポの早いパートではまだ音が完全にほぐれませんが、遅いパートではアンプとスピーカーの存在を忘れて楽曲に聴き入ることができました。MCACC PRO の効果は非常に大きく、サラウンドだけでなくステレオ再生でも音質が飛躍的に改善されることを確認できました。

MCACC PRO はソフトの音を若干犠牲にする印象がありますが、スピーカーの設置環境の劣悪さ、部屋の音響を一気に改善する魔法のような効果を持っています。逸品館お薦めの Real Sound 製品ほどではありませんが、MCACC PRO の効果は非常に大きく、スピーカーセッティングなどがまったくできなくても、アンプの能力をほぼ 100% 近く引き出せるので、そのありがたみは非常に大きいと思います。SC-LX88 は購入直後に「MCACC PRO」でスピーカーの自動設定を実施すべきです。

「Dolby：Atmos」

Dolby Atmos の DEMO ソフトを再生して、高音質マイクで録音してみました。その動画ファイルを YouTube 逸品館チャンネルにアップロードしています。

MARANTZ SR7009

「DTS サラウンド：手動設定」

SC-LX88 の音が素晴らしかったので、正直 SR7009 は「それに負けるだろう」と先入観を持っていました。確かに音の細やかさや明瞭度感では、SC-LX88 には及びませんが、SR7009 には SC-LX88 で少ない響きが多くて、中低音も柔らかくボリュームがあります。この芳醇なサウンドが音楽を聞いて感じたのとまったく同じ雰囲気、濃さを DVD サラウンドでも実現します。音で劣っても、雰囲気では勝るのが SR7009 の真骨頂です。

SC-LX88 の音が「アニメ / もしくは CG」なら、SR7009 の音は「実写 / もしくはフィルム」の味わいが感じられます。最新映画ではなく、フィルム時代の撮影された味のある映画を見たいのであれば、SC-LX88 よりも SR7009 の音質が確実にマッチすると思います。

「Audyssey」

SC-LX88 と同様に SR7009 もマイクを本体に繋ぐと測定が始まりますが、途中マイクを 7 回動かさなければならぬので操作がちょっと面倒です。時間も随分かかります。

測定後の音は音量の膨らみが緩和されたことから、EQ が最適化されたことはわかりますが「手動設定」と比較して、MCACC PRO ほど格別に音が良くなった印象はありません。逆にスピーカーそのものが持っていた「味わい」が薄れた用にも感じます。自動設定の効果は、スピーカーから音が出るタイミングまでもを補正する MCACC PRO (FullBand Phase Control) に Audyssey はまったく敵いません。この程度であれば、私は自動調整はいらない感じです。

「Dolby：Atmos」

Dolby Atmos の DEMO ソフトを再生して、高音質マイクで録音してみました。その動画ファイルを YouTube 逸品館チャンネルにアップロードしています。

AIRBOW NR1605/Special

「手動設定」

サラウンドでは、SC-LX88+MCACC PRO の音質がこれまでに最良でした。驚いたことに NR1605 Special の Direct サラウンドの音はそれに迫る細やかさを持つだけではなく、SR7009 の雰囲気、濃さもあわせ持っています。

冒頭の場面では、雨のしずくの音が完全に分離して聞き取り、弾丸が飛びかう場面では音の移動の素早さ、葉の落ちる音の明快さがとても鮮烈です。NR1605 Special が部分的にでも SC-LX88 を凌ぐと感ずるのは、それらの音の雰囲気、リアリティです。もちろん冷静に分析すれば、超低域の量感や深さなどで大型重量級の SC-LX88 に敵わない部分があるのは当然なのですが、「聞こえる音」・「感じる雰囲気」のバランスが完璧に近く、映像と音がシンクロしながらずっと体に入るので音質という静特性的な部分が全く気にならず、ストーリーに意識が引き込まれます。

※手動設定の設定値

試聴に使ったスピーカーシステム

- ・フロント：Focal 1028BE
- ・センター：AIRBOW IMAGE11/KAI2
- ・リア：Vienna Acoustics Mozart Grand(T2G)
- ・サブウーファー：なし

スピーカーの距離はすべて [1.9m]

小型スピーカーを使うセンターのみ音量を [+1.5dB] アップでセット

